



平形 精逸

本名 精一
昭和21年（一九四六）

昭和21年群馬県前橋市に生まれる。同41年青山杉雨に師事。昭和43年東京教育大学教育学部芸術学科書専攻卒業。同45年同大学院教育学研究科美術学専攻修了。同48年静岡大学教育学部講師、助教授を経て平成5年教授。同6年第11回読売書法展「書経之一節」読売新聞社賞、同8年第58回謙慎書道会展「楚辭一節」梅花賞、文部省高等学校学習指導要領作成協力者委員。同10年第15回読売書法展「古詩」読売新聞社賞。同17年日本教育大学協会全国書道教育部門代表。同18年文部省高等学校学習指導要領作成協力者委員。同19年全国大学書道学会理事長。同22年第17回横社文会展「楚辭一節」同会長賞、第4回世界お茶まつり開会式「茶」字揮毫、OCHAバイオニア賞文化・芸術大賞（世界緑茶協会）。同23年静岡大学定年退職（この間、常葉学園大学・静岡県立大学・静岡文化芸術大学・愛知教育大学大学院の非常勤講師併任）、退任記念平形精逸書展（静岡グランシップ）。同24年第44回日展「寒山詩」特選。同26年第29回国民文化祭美術展審査員。著書等、『明解書写教育』（萱原書房・共著）、『高等学校学習指導要領解説芸術編』（文科省・共著）、『書道基本用語詞典』（中教出版・共著）、『美しい文字をなぞって味わう百人一首』（明治書院）、『文字文化と書写書道教育』（萱原書房・編著）、『書の古典と理論』（光村図書出版・編集代表）、文科省検定小・中学校教科書『新しい書写』（東京書籍・編集代表）、文科省検定高等学校教科書『書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（東京書籍・編集委員）。現在、日展会友、読売書法会理事、静岡大学名誉教授、常葉大学教育学部教授、全国大学書道学会会長、日本書写技能検定協会理事・中央審査員、謙慎書道会常任理事、寄鶴文社常任理事、月刊誌『現代書写』発行、青象会主宰。

13 | 劉希夷詩 平成27年
学生時代、青山先生の石鼓文に魅せられて以降、篆書の現代的表現を課題にしている。ただ石鼓文には字種に限りがあるので金文をモチーフとしたが、単なる写実を避け、字形をやや矩形にとって緊密な構築性を求めた。また線性にリズムを強調して気宇弘大な境地の表出に努めた。

【釈文】

宛轉蛾眉能幾時
須臾鶴髮亂如絲

（劉希夷）

